

◆ 思春期と若年成人における妊娠前 HbA1c レベルと妊娠転帰

Preconception HbA1c levels in adolescents and young adults and adverse birth outcomes.
McCarthy KJ et al

JAMA Netw Open 7 : e2435136, 2024

背景 近年、プレコンセプションケアの一環として妊娠前の血圧の管理が妊娠高血圧症候群発症予防のために重要であると考えられており、血圧だけでなく、HbA1cの管理も、妊娠高血圧症候群発症予防に重要となる可能性がある。

目的 思春期および若年成人の妊娠前 HbA1c レベルと、初回出産時の妊娠糖尿病の発症リスクとの関連を評価する後向きコホート研究である。

方法 対象者は 10～24 歳の妊産婦で、糖尿病の既往がなく、妊娠前に少なくとも 1 回の HbA1c 測定を受けた女性 14,302 人。統計解析は妊娠前の HbA1c 値に基づき、非糖尿病群 : HbA1c < 5.7%、前糖尿病群 : HbA1c 5.7% 以上 6.5% 未満の 2 群に分類し、主要評価項目 : 初回出産時の妊娠糖尿病の発症、副次評価項目 : 妊娠高血圧症候群、早産、帝王切開、巨大児を検討し、ROC 曲線回帰を用いて、妊娠糖尿病を予測する最適な HbA1c 閾値を検

討した。

結果 前糖尿病群は正常血糖群に比べ、妊娠糖尿病のリスクが増加しており、前糖尿病群では、妊娠高血圧症候群のリスクが増加(aRR 2.21, 95%CI 1.91-2.56)、早産のリスクが増加(aRR 1.18, 95%CI 1.02-1.37)した。一方、帝王切開および巨大児との関連は統計的に有意ではなかった。妊娠糖尿病を予測する最適な HbA1c 閾値は 5.6% であり、肥満の有無による違いはなかったが、ヒスパニック系では 5.5% とやや低い値が示された。

結論 本研究により、妊娠前の前糖尿病が、初回出産時の妊娠糖尿病リスクおよび母体の心代謝リスクの増加と関連することが示された。妊娠前の血糖コントロールが、妊娠合併症のリスク軽減に寄与する可能性があり、若年女性に対する妊娠前の健康管理の重要性が示唆された。

(金沢医科大学医学部産科婦人科学 藤田智子 抄)

◆ 男性パートナーの治療による細菌性陰症の再発予防

Male-partner treatment to prevent recurrence of bacterial vaginosis.
Vodstrcil LA et al

N Engl J Med 392 : 947-957, 2025

背景 細菌性陰症(bacterial vaginosis ; BV)は、生殖年齢女性の約 1/3 が罹患し、再発率が高い疾患である。BV 起因菌は性行為を介してパートナー間で交換される証拠が示されており、男性パートナーの治療が治癒率の向上につながる可能性が示唆されていたが、有効性を示す十分なデータは示されていなかった。

目的 本研究は BV 女性とその男性パートナーを対象とした、オープンラベルランダム化対照試験である。

方法 複数の性的パートナーがいる者、セックスワーカー、HIV 感染者は除外された。パートナー治療群では、女性に対してメトロニダゾール(400 mg 錠, 1 日 2 回, 7 日間)、または 2% クリンダマイシン塩酸塩クリーム腔内投与 7 日間、または 0.75% メトロニダゾール軟膏腔内投与 5 日間の抗菌薬治療を行い、男性パートナーにはメトロニダゾール(400 mg 錠, 1 日 2 回, 7 日間)および 2% クリンダマイシン塩酸塩クリーム(陰茎皮膚に 1 日 2 回

塗布, 7 日間)を投与した。対照群では女性に同様の治療を行い、男性には介入を行わなかった。主要評価項目は 12 週間以内の BV 再発とした。

結果 パートナー治療群に 81 組、対照群に 83 組のカップルが割り付けられた。150 組が 12 週間のフォローアップを完了した時点で、女性のみの治療が両者への治療に劣ることが明らかとなり試験は中止された。Intention-to-treat 集団において、再発はパートナー治療群 69 人中 24 人(35%, 再発率 1.6 件/人年)、対照群 68 人中 43 人(63%, 再発率 4.2 件/人年)であった。男性パートナーに認められた主な有害事象は吐き気、頭痛、味覚障害などであった。

結論 BV 女性患者に対し男性パートナーにも経口および外用抗菌治療を行うことで、12 週以内の再発率が有意に低下した。

(金沢医科大学医学部産科婦人科学 高倉正博 抄)